

初任者研修のまとめ

国語科 富野 晶子

1 はじめに

湯沢高校に赴任してからの一年間を振り返ると、日々の授業改善に向けて試行錯誤をし、分掌の仕事や学校行事などに慣れていくことで精一杯であった気がする。そのような中で、初任者研修を通して教師という職業について改めて見つめ直し考える機会を得たことは貴重な経験であった。本稿では、この一年間の総括として、初任者研修の成果についてまとめてみたい。

2 校内研修

(1)一般研修

一般研修では校長・教頭先生から教員としての心構えや知っておくべき知識について訓辞を受けた。また、各分掌主任の先生方からは、学校内の組織体系やそこで必要とされる知識等について教えていただいた。この研修を通して、学校は様々な組織が連携し合って運営されていることを改めて確認し、学校組織の円滑な運営には各部署の連携と協力が欠かせないことなのだと感じた。

(2)教科研修

教科研修では主に、自分の授業をさまざまな教科の先生方から見ていただくことで多面的なアドバイスをいただくことができた。技術的なことから授業の内容に深く関わる部分まで自分に足りない点を指摘してもらうことで、客観的に自分を見つめることができた。

3 校外研修

(1)総合教育センターでの研修

センターでの研修は平均して月に2～3回、教科の研修と全体で行う二種類が行われた。教科内での研修では授業改善に向けたさまざまな講義、演習が行われた。特に、中学校との連携を意識した授業展開については指導主事や同じ教科の初任者の先生方と意見交換などを頻繁に行った。

(2)授業研修

高校教育課主催の授業研修は3回行われた。6月の授業研修Aでは、初任者の学校での授業をビデオで撮影し、他の初任者や指導主事の先生とともに改善できる部分を見つけていく形式をとった。

10月の授業研修Bでは、秋田明德館高校にて、定時制・通信制から選抜された生徒による生活体験発表会発表を聞き、午後から明德館高校の普段の授業を参観した。

11月の授業研修Cでは、各教科ごとに分かれて県内の高校で授業を行った。国語科は新屋高校で漢詩の授業を行った。

(3)その他

7月には「岩城少年自然の家」にて一泊二日の宿泊研修が行われた。初任者同士が協力し合って課題を乗り越えるということで、さまざまな野外アトラクションに挑戦した。

10月には稲川養護学校にて、特別な支援を必要とする子どもたちとの関わり方を学ぶ研修が行われた。

1月には教育センターでの宿泊研修があり、教員として知っておくべき事項について講義を受けた。

3 まとめ

この1年間の初任者研修を通じて、自身を改めて見つめ直し、今後の教員としての自分の在り方をしっかりと考えることができた。最後に、指導教員の太友佐和子先生をはじめ、お忙しい中ご指導いただいた多くの先生方に心より感謝を申し上げたい。